

# 夏にかかりやすい病気！

夏にかかりやすい病気と言ったら、夏かぜです。夏かぜの原因となるウイルスは高温・多湿を好むため梅雨時から夏にかけて流行します。そのウイルスのほとんどがお腹の中で増殖するため、なおりにくいという特徴があります。エンテロウイルス、コクサッキーウイルスやアデノウイルスが主な原因ウイルスで、プール熱（咽頭結膜熱）、ヘルパンギーナ（水疱性咽頭炎）、手足口病などがあります。ほかに、とびひ（伝染性膿痂しん）、水いぼ（伝染性軟属腫）などの皮膚の病気にも気を付けましょう。

## プール熱（咽頭結膜熱）

アデノウイルスが目やのどに感染することにより発症します。乳幼児から学童、生徒などの間に流行することが多く、特に5歳以下に多いようです。又、一部では夏にプールで感染することもある夏かぜの一つです。

### 【主な症状】

39度以上の高熱で発症し、その後、のどの痛み、結膜炎（目の充血、痛み）の症状があらわれ、3～5日続きます。



### 【感染経路】

アデノウイルスは感染力が強く、口、鼻、のどの粘膜あるいは目の結膜から侵入して感染します。多くは鼻汁、くしゃみの飛沫感染ですが、プールでの結膜からの感染や共用したタオルやドアノブなどを介しても感染が広がります。

### 【潜伏期間】

感染して症状があらわれるまでの潜伏期間は5～7日間とされています。

### 【予防方法】

うがいや手を良く洗いましょう。又、タオルの共用はやめましょう。



### 【登園基準】

熱、咽頭発赤（のどが赤い）、目の充血等の症状がなくなってから二日間は当園できません。

## ヘルパンギーナ（水疱性咽頭炎）

口の中の粘膜にあらわれる水疱性発疹と発熱を特徴とする急性ウイルス性の咽頭炎です。コクサッキーウイルスやエンテロウイルスが原因です。4歳以下がほとんどで、1歳、2歳が特に多くかかる夏かぜの一つです。

### 【主な症状】

38℃～40℃ほどの高熱が突然出て2、3日続きます。少し遅れてのどの奥の粘膜が赤くはれて水疱性の発疹があらわれます。のどが激しく痛みます。発熱時の熱性けいれん、口の中の痛みのための食欲不振、哺乳障害による脱水症に注意してください。頭痛、腹痛、嘔吐をおこすこともあります。熱がさがれば2、3日以内で回復しますが、まれに無菌性髄膜炎、急性心筋炎などを合併することがありますので注意が必要です。

### 【感染経路】

感染者の口や鼻水からの飛沫感染による場合が多いようです。エンテロウイルスは腸で増殖し便に排出されるため、オムツや下着、床、椅子、おもちゃなどが汚染され、手を介して口に入ると感染する場合も少なくないようです。便からは1週間から4週間に渡りウイルスが検出されます。

### 【潜伏期間】

感染して症状があらわれるまでの潜伏期間は2～4日間とされています。

### 【予防方法】

うがいや手を良く洗いましょう。洗濯物は日光で乾かしましょう。



### 【登園基準】

全身症状が安定し、いつもの食事が食べられるようになるまで登園できません。

## 手足口病

4歳までの幼児を中心に夏季に流行するエンテロウィルス、コルサッキーウィルスなどによる感染症です。

### 【主な症状】

軽い微熱が出る場合が多く、又、その名が示すとおり、口の中の粘膜に水疱性の発疹、手や足などに赤い発疹が出ます。まれに髄膜炎や脳炎などの中枢神経系の合併症を起こす場合があります。ほとんどの場合1週間から10日程度でなおります。

### 【感染経路】

咳などで咽頭（のど）から出る飛沫での感染、便の中に排出されて口に入る経口感染、水疱から出た液による直接感染などがあります。

### 【潜伏期間】

感染して症状があらわれるまでの潜伏期間は3～6日間です。



### 【予防方法】

患者に近づかないことと、患者本人、回復者を含めてうがいや手を良く洗いましょう。ワクチンはありません。

### 【登園基準】

全身症状が安定し、いつもの食事が食べられるようになるまで登園できません。

## とびひ(伝染性膿痂疹)

虫さされや湿疹の皮膚のキズに黄色ブドウ球菌が感染しておこる感染力の強い皮膚病です。その名のとおり体のあちこちに飛び火します。「とびひ」と思ったらすぐに受診しましょう。

### 【主な症状】

突然、水疱ができ、それが破れて「赤むけ」の状態になり、その後カサブタになります。菌は水疱の中にあります。



### 【予防方法】

虫さされや湿疹をかきむしった後にできやすいので注意してください。又、できた場合には分泌物がほかに広がらないよう患部をしっかりと包帯などをしてください。

### 【登園基準】

炎症症状が強く、広範なものについては登園はできません。皮疹が乾燥し、ガーゼでおおって悪化しなくなれば登園できます。

## 水いぼ(伝染性軟属腫)

乾燥肌やアトピー性皮膚炎の皮膚にできやすい感染力が強い「いぼ」の一種です。かゆみや痛みはほとんどありません。治療法は痛みを伴う方法がほとんどですが、痛みのない漢方薬による治療法もあります。

### 【主な症状】

はじめは1～2mmの皮膚と同色のブツブツができ、しばらくして3～4mmになります。真ん中に「へそ」のような凹みができます。わきの下、わき腹、ももの付け根などの皮膚と皮膚がすれ合うところにできやすいので、入浴後に保湿剤を塗るなどして乾燥肌にならないようにしましょう。



### 【予防方法】

プールなど肌と肌が触れ合う場所で感染する場合があります。又、水いぼをつぶすと、白くて小さい粒のようなものが出てきます。それがウィルスで、飛び散って感染が広がりますので、つぶさないように注意しましょう。

### 【登園基準】

合併症がなければ登園できます。感染のおそれがあるため、他とお子さんと皮膚が接触しないよう保育します。